

2023年5月12日

各位

JX石油開発株式会社

## 理念体系の制定と2050年に向けたロードマップの策定について

当社（社長：中原 俊也）は、第3次中期経営計画（2023-2025年度）を策定するにあたり、「企業理念 Mission」・「ありたい姿 Vision」・「全社戦略」を改めて吟味し、理念体系として制定いたしましたので、お知らせいたします。当社は、この理念体系を経営の礎として、今後の事業活動を展開してまいります。

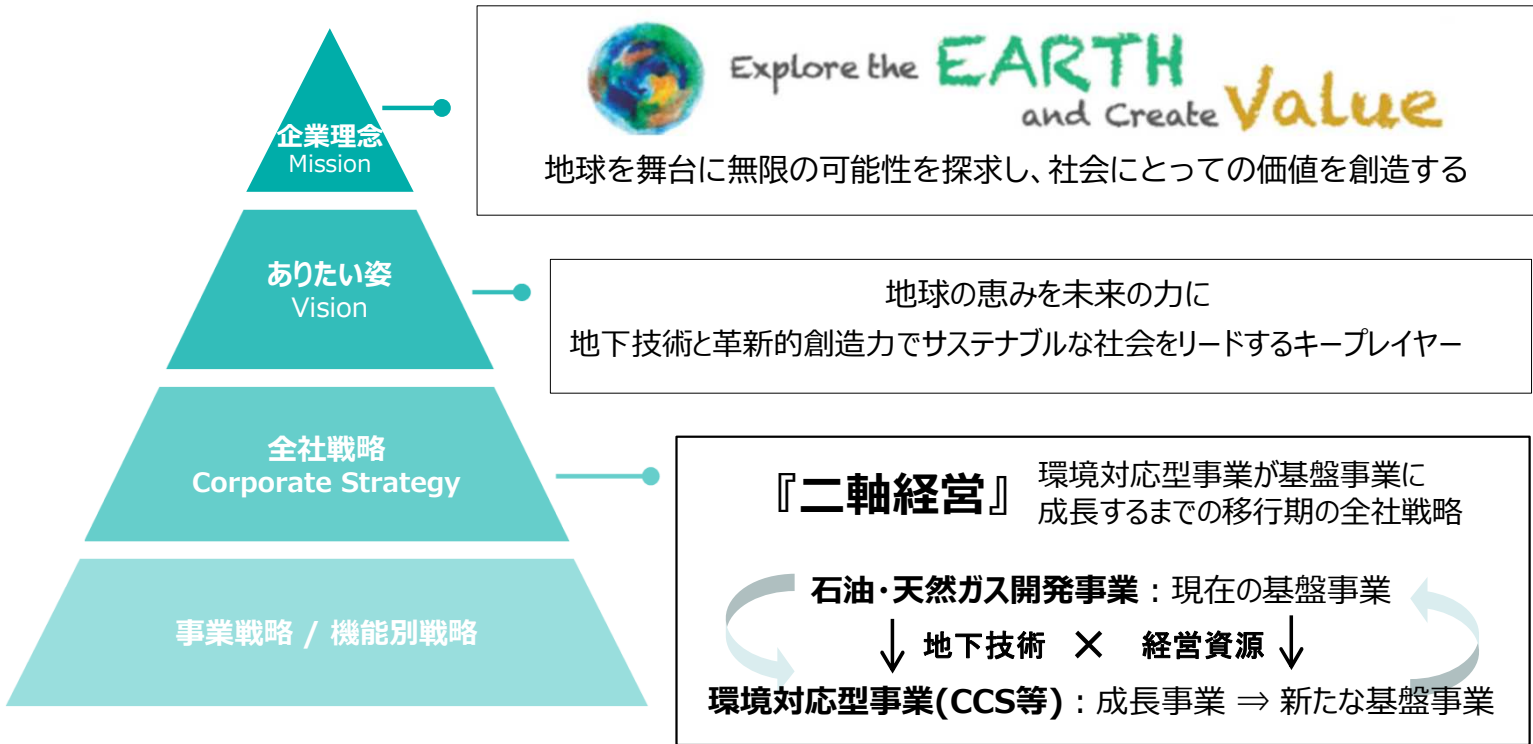
また、全社戦略における「環境対応型事業」の重要な取り組みである「CCS（注）事業」についても、これまでの当社の取り組みと将来性を整理し、2050年に向けたロードマップを策定いたしましたので、併せてお知らせいたします。

（注）CCS: Carbon dioxide Capture and Storage の略。排出されるCO<sub>2</sub>を回収し、地下に圧入・貯留する技術。

以上

別紙1：JX石油開発の理念体系

別紙2：2050年に向けたロードマップ



「企業理念」の策定について

創立以来、私たちは地下の探査、いわば地球の探求を通じて、生活に不可欠なエネルギーを世界の皆様に安全・安定的にお届けしてきました。これまで社内では、その探求と挑戦を“Explore the EARTH and Create Value”という標語で共有しておりましたが、脱炭素の潮流の中で、自らの使命を問い直した結果、私たちのこだわりと誇りは、地下の探査を通じた社会的な価値の創造にあることを改めて認識し、この度、この標語を新たに企業理念として位置付けるに至りました。

「ありたい姿」に込められた思い

私たちは地球の恵みに感謝しながら、それらを未来の力に変えていきます。強みとする地下技術を土台に、革新的な創造力で来たる2050年カーボンニュートラル時代におけるサステナブルな社会の実現をリードするキープレイヤーを目指します。

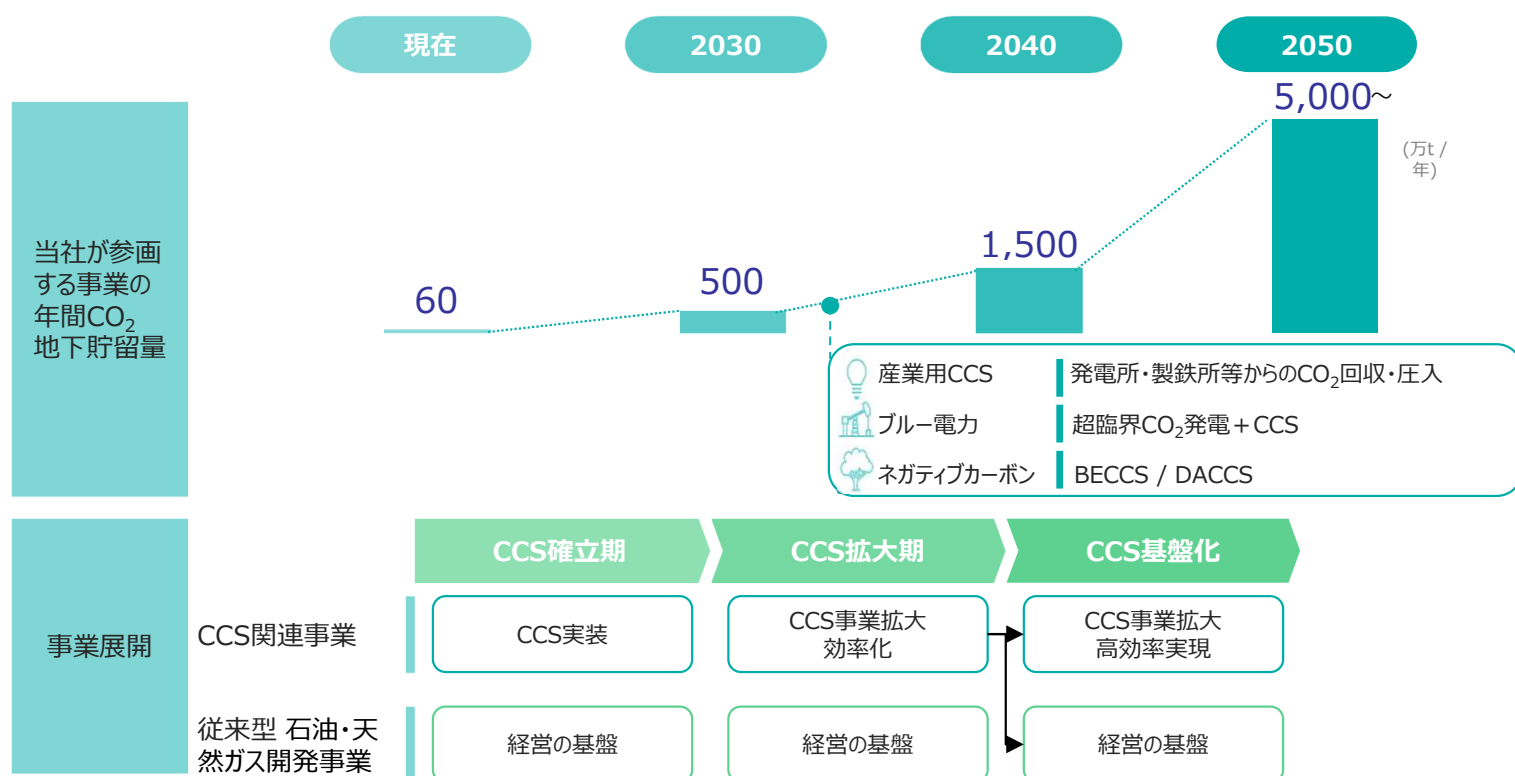
「全社戦略」：『二軸経営』とは

エネルギーの安全・安定供給が社会からの負託であり、石油・天然ガスの開発が私たちの基盤事業であることに変わりはありません。私たちは、その負託に応えつつ、基盤事業で獲得した技術と経営資源を、成長事業であるCCSを中心とした環境対応型事業に投下して参ります。

『二軸経営』とは、石油・天然ガス開発事業というこれまでの軸が、環境対応型事業という新たな軸の萌芽を生み出し、その萌芽が大きく成長するまで支えつつ、いずれは一つの太く大きな軸に収斂していく移行期における戦略を表すものです。

## 2050年に向けたロードマップ

- 2030年までにCCSを実装。他社に先駆けて取り組むことで、競争優位性を構築。
- CCSを軸とした多様なビジネス展開で社会のサステナビリティ実現に貢献。



## 2050年に向けたロードマップについて

当社は、ENEOSグループの一員として、

- 2030年時点で温室効果ガス排出量を2013年度比マイナス46%
- 2040年時点でカーボンニュートラル、というグループ目標の実現に貢献いたします。

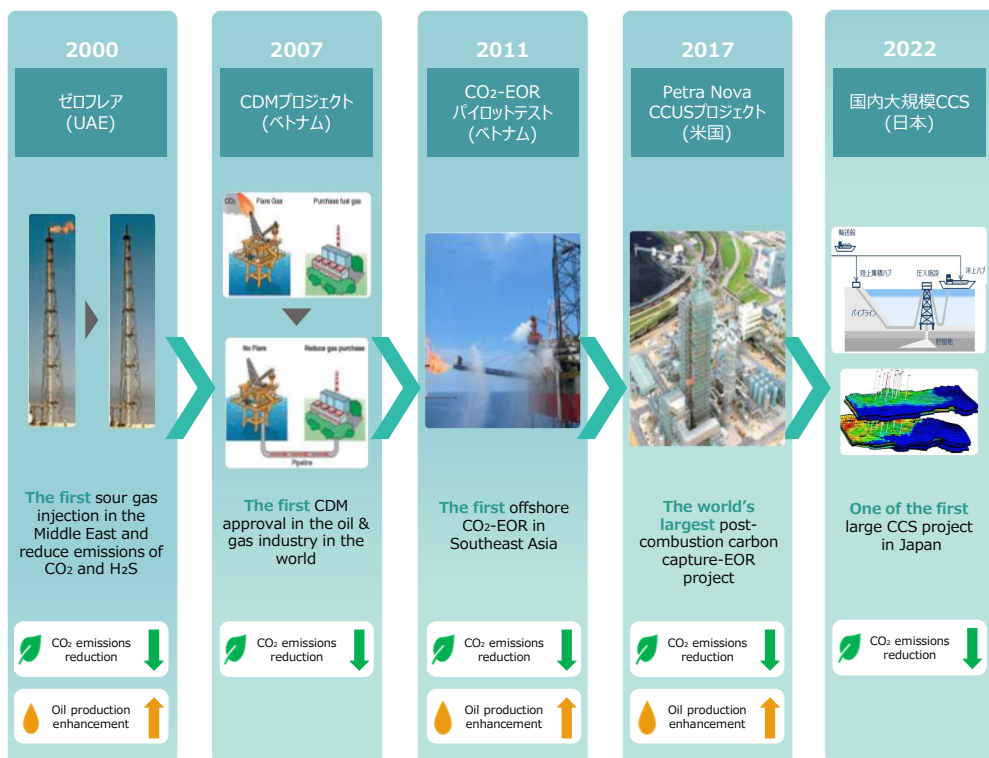
また、社会の一員として、世界中で排出されているCO<sub>2</sub>を大量削減出来る手段であるCCS/CCUSなどの技術を必要としている顧客に提供いたします。

この二つの課題を実現するために、2030年500万トン、2040年1,500万トン、2050年5,000万トン超のCO<sub>2</sub>地下貯留というチャレンジングな目標を掲げました。

当社は、サステナブルな社会の実現に貢献すべく、CCSを軸とした多様な事業展開を模索していきます。

## 【参考】これまでの取り組みとCCSの将来性


 当社のこれまでの脱炭素の取り組み


 CCSの将来性


CCSは、現在、検討されている脱炭素技術の中では、既存石油・ガス開発の技術が転用可能で、最も実現性の高い技術です。

CCSは、大規模なCO<sub>2</sub>削減への貢献が期待できる脱炭素化の切り札として大きな期待が寄せられています。

当社は、2000年代初めから、アラブ首長国連邦（UAE）アブダビにおける排出ガスのゼロフレア化に始まり、ベトナムでのCDMプロジェクト（注1）、CO<sub>2</sub>-EORパイロットテスト（注2）など、環境対策・温暖化防止に先駆的に取り組んできました。

2017年に開始した米国Petra Nova CCUSプロジェクトでは、米国テキサス州の石炭火力発電所から放出されていたCO<sub>2</sub>を回収して枯渇油田に圧入し、同油田の生産量を増加させながら、大気中に放出されるCO<sub>2</sub>を削減しました。CO<sub>2</sub>を地中に圧入する（CCS）だけでは採算の確保が難しいという困難を、CO<sub>2</sub>圧入による原油の増産効果と組み合わせるモデル（CCUS）で克服し、事業化に漕ぎつけました。当社の地下技術と革新的な創造力が発揮されたフラッグシップ的なプロジェクトです。

CCS/CCUSは、脱炭素社会実現の切り札として大きな期待が寄せられている技術です。当社はこれまでの様々なプロジェクトにより獲得した知見を、日本を含む国内外に水平展開し、サステナブルな社会の実現をリードしてまいります。

注1：原油生産設備で燃焼させていた随伴ガスを発電所に供給し、発電燃料の消費を削減したプロジェクトであり、国連のCDM（クリーン ディベロップメント メカニズム）として承認された。

注2：独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構（JOGMEC）と共同で実施したCO<sub>2</sub>の地中への圧入によるEOR効果（原油増産効果）を確認するプロジェクト。